

平成 29 年度（2017 年度）

京都市立芸術大学 美術学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

2017年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられた紙コップ50個を台紙の上に自由に配置し、鉛筆で描写しなさい。

●条 件

1. 与えられた紙コップ50個全てを台紙上に配置すること。
2. 紙コップは切る、折る、つぶす等加工せずに描写すること。
3. 紙コップはビニール袋から取り出して使用すること。

【支給されるもの】

紙コップ50個

解答用紙1枚、台紙1枚、カラーカード1枚

【使用してよいもの】

カルトン（56cm×40cm以上）、カルトン用クリップ、鉛筆（色鉛筆は除く）、消しゴム、羽ぼうき又はダスティングブラシ、カッターナイフ（鉛筆削り用）

【注意】

1. 解答用紙は縦横自由です。どちらを表にしてもかまいません。
2. 解答用紙と台紙は同じものです。どちらを解答用紙にしてもかまいません。
3. 席を立たずに、腰をかけたままで描写しなさい。
4. 試験終了15分前にカラーカードの貼り付けをします。

【描写：モチーフ】



2017年度 実技試験問題

科目 色彩

時間 14時30分～17時30分

テーマ「 流れる水 」

与えられた銀紙を使用し、上記のテーマを色彩で表現しなさい

●条件

1. 銀紙は、はさみや手で自由に加工してもよいが、立体をつくらずに、解答用紙にのりで貼り付けて使用すること。
2. 彩色は、透明水彩絵具、不透明水彩絵具、色鉛筆を自由に使用すること。すべての種類を使用しなくてもよい。
3. 銀紙は解答用紙からはみ出さずに貼ること。
4. 銀紙はすべてを使う必要はない。

【支給されるもの】

解答用紙（画用紙 大）1枚、 銀紙 1枚、 試し塗り用紙（画用紙 小）1枚、
上質紙（アイデアスケッチ用）3枚、 スティックのり 1本

【使用してよいもの】

カッターナイフ、はさみ、直定規、透明水彩絵具、不透明水彩絵具、色鉛筆、鉛筆、消しゴム、筆、筆洗、パレット、絵の具皿、カルトン、羽ぼうき（又はダustingブラシ）、ぞうきん、クリップ

【注意】

1. 解答用紙は縦横自由です。表裏どちらを使用してもかまいません。
2. 下描きに鉛筆を使用してもよい。
3. 作業は着席したまま、カルトンの上でおこなってください。
4. 解答用紙は重ねて回収します。
5. 試験終了 15 分前にカラーカードの貼り付け作業を行います。

【色彩：モチーフ】



2017 年度 実技試験問題

科目 立体
時間 9時00分～12時00分

2つの円柱を関係づける1つの立体を制作しなさい

●条件

1. 2つの円柱は転がったり倒れたりしないように工夫すること。
ただし、2つの円柱は加工したり接着材料を使用してはいけません。
2. 支給された解答用材料（2つの円柱・ケント紙2種類）は必ず使用すること。
ただし、ケント紙はすべて使いきらなくてもよい。
3. ケント紙の接着には、木工用速乾接着剤・紙粘着テープのみを使用しなさい。
4. 解答作品（2つの円柱を含む）は解答用台（35cm×35cm）をはみ出さず、
また高さ35cmからはみ出さないこと。
5. 解答用台は解答作品を固定する以外は一切加工してはいけません。
また、解答用台および解答作品には描画・着色してはいけません。
6. 試験終了後、解答作品に触れてはいけません。各自、移動用カバーをして、
解答作品を持ち体育館まで野外や階段など、約300メートルを移動します。
解答作品は持ち運びに耐えるように十分な強度を持たせ、解答用台に
しっかりと接着・固定すること。
7. カラーカードは、試験終了前に、監督者の指示に従い解答用台の右端に貼ります。

【支給されるもの】

解答用材料 : 円柱（直径1.5cm×長さ35cm1本、直径3.8cm×長さ20cm1本）、
A3 ケント紙4枚（厚手2枚・薄手2枚）
接着材料 : 木工用速乾接着剤1個、紙粘着テープ1巻
解答用台 : 茶色段ボール1枚 35cm×35cm
移動用カバー : 茶色段ボール箱1個、カバー固定用テープ2枚
制作支援用品 : 灰色ボール紙1枚・40cm×55cm（カッティング作業用）、
上質紙3枚（アイデアスケッチ用）

【使用してよいもの】

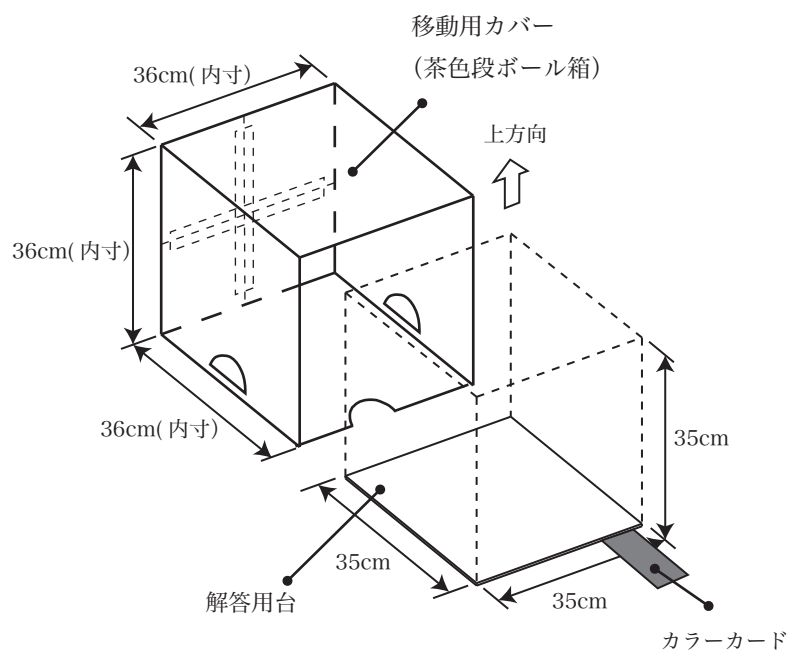
上記支給されるもの及び下記の立体受験用具

鉛筆、消しゴム、カッターナイフ、ボールペン、はさみ、直定規（60cm以内のもの）、
三角定規（30cm以内のもの一組）、分度器、コンパス、粘土へら、
ラジオペンチ（刃つきのもの）

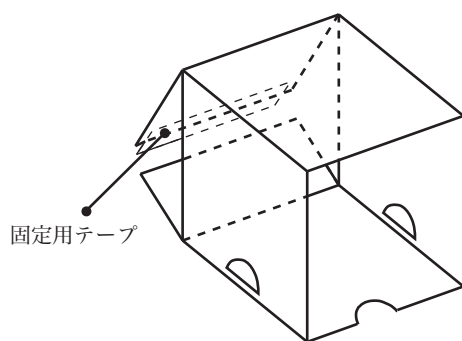
【注意】

1. 試験終了後に移動用カバーを被せます。移動後体育館において指示に従い外すこと。
2. 解答作品には、解答用材料及び、接着材料として支給されるもの以外は使用しないこと。
3. 上質紙3枚は、アイデアスケッチ用として使用すること。
4. 接着には支給された木工用速乾接着剤、紙粘着テープのみを使用すること。
（カラーカードの接着の接着は木工用速乾接着剤を使用すること）
5. 作業は支給された灰色ボール紙上で行うこと。
6. 作業は着席したまま行ない、他の受験生の迷惑にならないようにすること。
7. 忘れた用具の貸し出しはしません。
8. 怪我のないように慎重に作業すること。

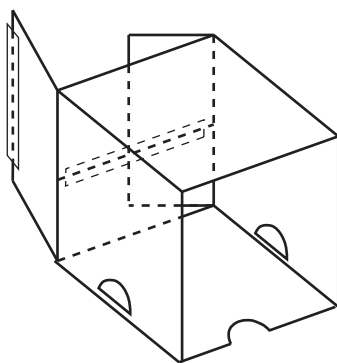
移動用カバー 組み立て説明



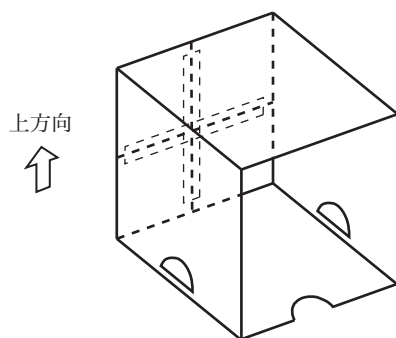
移動用カバー（茶色段ボール箱）組み立て順序 ① ② ③



- ① フタは上下を先に閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る

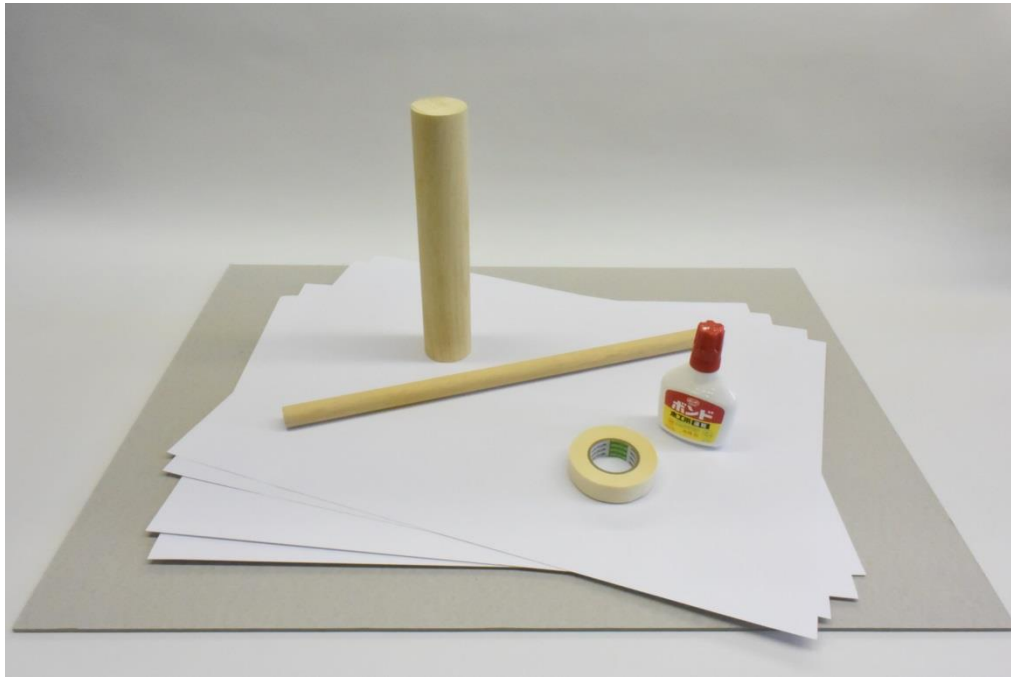


- ② 左右を閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る



- ③ 移動用カバー完成

【立体：モチーフ・解答用材料】



二〇一七年度 総合芸術学科入学試験問題
科目 小論文(二〇〇点満点)
時間 十四時三〇分～十六時三〇分

別紙の問題文は、シンシア・フリーランド著、藤原えりみ訳『でも、これがアートなの？―芸術理論入門』(株式会社ブリュッケ、二〇〇七年) から抜き出したものである。

この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

一、傍線部に「異文化の内的体験の達成が必要である」とありますが、この文の意味するところを説明しなさい。

(60点)

二、この文章で筆者が主張していることを、四〇〇字以内で要約しなさい。

(60点)

三、筆者の意見を参照しながら、文化が交差する芸術の例を考え、あなたの体験をふまえてそれを叙述しなさい。

(80点)

(別紙は全三ページです)

《注意》

- ・答案用紙は、表面だけを使用し、裏面は使用しないで下さい。
- ・答案用紙は横書きで使用して下さい。
- ・答案用紙は計二枚配布します。問題一・二用の一枚と、問題三用の一枚です。問題三に関して一枚では足りない時は、試験監督に申し出て下さい。その場合、試験開始時に配付した問題三用の答案用紙の最後に「次に続く」と書いて下さい。
- ・すべての答案用紙に受験番号と氏名を明記して下さい。

【小論文試験問題に係る出典】

1 別紙の問題文

シンシア・フリーランド著, 藤原えりみ訳『でも, これがアートなの? — 芸術理論入門』(株式会社ブリュッケ, 2007年)

・ 79ページ～85ページ

(本書の引用部分には図版が2点挿入されていますが, そのうち81ページの1点は省略しました。)

評価のポイント

◆ 描 写

以下の項目を総合的に勘案し、基礎的描写力を評価した。

- ・空間の把握(モチーフどうしの位置関係と距離を把握し、画面内に空間を感じられるように描くことができるか。)
- ・明暗の把握(配置したモチーフの明暗を把握し、画面内に光を感じさせるように描くことができるか。)
- ・画面の構図(効果的にモチーフを配置し、魅力のある画面を作ることができるか。)
- ・質感と固有色(モチーフの質感や固有色を表現することができるか。)
- ・形態の把握(モチーフの形態を把握し、形や大きさを画面上に表現することができるか。)
- ・素材と技法の理解(鉛筆、紙、消しゴムなどの描画素材を活かしているか。)

◆ 色 彩

出題内容を理解し、テーマのイメージを膨らませて、銀紙を活かした豊かな色彩と構成力で、独創的な表現ができているかを評価した。

◆ 立 体

- ・2つの円柱の関係をしっかりとイメージし、与えられた素材によって実現しているか。
- ・2つの異なる円柱を固定する構造を考え制作できているか。

◆ 小論文

問題1

問題文中の「異文化の内的体験の達成が必要である」という表現が意味するところを深く理解し、別の言葉に置き換えて記す力を問う問題。全文に散在する関連する表現(直に異文化に触れる、言葉を越えた鑑賞としての芸術体験、普遍的美、情動を通じた体験など)を自分なりに解釈・再構成して説明したものは高く評価し、関連性が低い事柄が羅列されている文章は低く評価した。

問題2

文章の内容を正確に理解し、論旨を適確に踏まえて、所定の文字数に適した仕方で客観的にまとめる能力を求めた。特に、デューイの考え方のどの部分に関して、著者がどのような考え方を有しているかの取りまとめ方が、重要な評価ポイントの一つとなった。

設問3

問題文に述べられている事柄を自分の問題として捉えなおし、具体的事例を挙げて比較的自由に記述させる、作文能力を問う問題。知識の深さだけでなく、具体的な事例を適確に説明し、文脈に応じて内容を書き分け、さらに問題文と関連させながら自分の考え方を相手に伝えるものを高く評価した。発想の柔軟性、論旨の展開力、総合的な表現力が評価のポイントとなった。具体的事例の説明が十分でないもの、問題文の主張に対して単に自分の意見を記すのみのものなどは低く評価した。

2017 年 4 月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>